



歯のはなし

むし歯は早期発見・治療が大切！「これってむし歯？」のサインを見逃さないで

「歯が痛くなった…」「しみるようになった…」など、むし歯のサインはいろいろありますが、むし歯は早期発見・治療が大切です。

なぜなら、治療する箇所が小さければ小さいほど治療期間は短

いうえ、ご自身の歯を守りながら治療することができるためです。

そこで今回は、むし歯になっているかもしれない時のサインについてお話しします。



サイン①

しみる・痛む

むし歯になった時、最もわかりやすいのが歯がしみる・痛むといったサインです。冷たいものだけでなく、温かいものを食べた時にも歯がしみる、歯が痛むといった場合、**中度のむし歯**を疑いましょう。このようにしみたり痛んだりしている状態というのは、歯の象牙質までむし歯が達している可能性が高いため、**すぐに治療を開始する必要があります**。



サイン②

変色・穴が開く

歯の表面にあるエナメル質が溶け、歯の表面が変色していたり、穴が開いたり、奥歯の溝や歯と歯の間が茶色や黒色に変色しているのは**軽度のむし歯**の可能性ががあります。ご自身で発見するのはなかなか難しいため、定期健診などで指摘されて気がつく場合が多いでしょう。まだむし歯が神経まで達していないため、痛んだりしみたりすることはありませんが、これ以上の進行を止めるために**適切な治療が必要**です。



サイン③

フロスがひっかかる

今までスムーズに入っていたフロスがひっかかるようになったり、食べ物が頻繁に挟まるようになるのは、もしがするとむし歯のサインがかもしれません。**歯と歯の間**は歯ブラシの毛先が届かない場所なので、むし歯になるリスクが高い所です。

もしフロスを使用して「ちょっとおがしいな」と感じる事があれば、**早めに歯科医院でチェック**しましょう。



サイン④

詰め物・被せ物に段差ができる

過去に治療した詰め物や被せ物を何十年も使用していると、天然歯との間に段差ができてくる場合があります。段差ができるとその隙間には**歯垢がたまりやすくなり、むし歯のリスクも高くなってしまう**ます。また、詰め物や被せ物の内部が再びむし歯になり段差ができてしまうことも。さらに、**過去に神経を抜く治療をした歯は**、むし歯になっても痛まず発見が遅れがちです。治療済みの歯でも、再度むし歯になっていないか定期健診を受けて確認しましょう。



残念ながら、むし歯を放置していても自然に治ることはありません。つい忙しかったりすると「ちょっと様子を見ておこう…」などと治療を先送りしがちですが、悪化すればするほど治療の期間も長引いてしまいます。気になるサインがあれば、早めの受診をおすすめします。

